

2. 集落カルテ

2-1 集落カルテとは

「1. 人口増減の要因」で述べてきたように、集落の人口増減の要因としては、主なものとして「産業」(2項目)、「集落組織」(4項目)、「生活環境」(3項目)の計9項目が挙げられました。本調査では、これらの項目を切り口としてヒアリングの結果を客観的に且つ分かりやすく提示するために、集落カルテを用いて人口増減の要因を総合的に分析することとしました。

今回の集落カルテは、人口の盛衰に関係すると考えられる9項目について、コンサルタントが第三者として客観的に集落を評価した結果を取りまとめたものです。評価は、5点満点(対象集落中で相対的に一番よいと判定するところに5点をつける)で行い、集落ごとに得点とその理由を図表に取りまとめました。

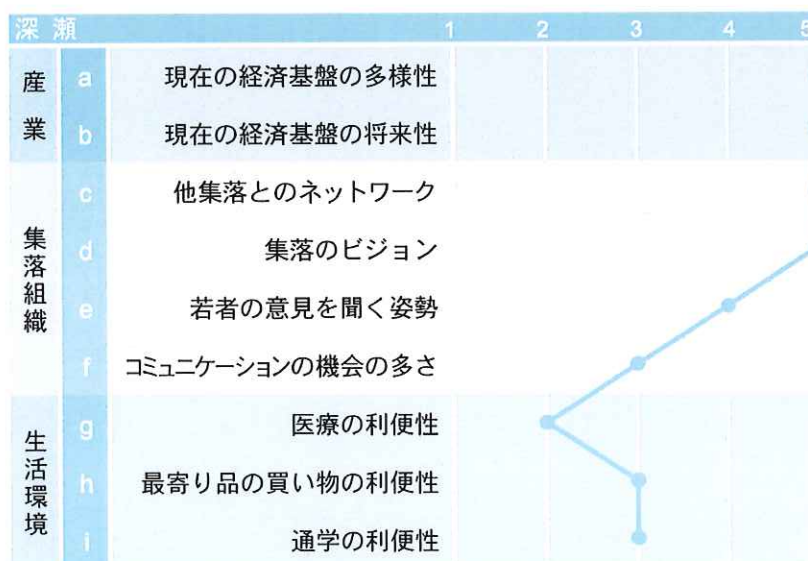
カルテとして評価を取りまとめたのは、定性的なデータであるヒアリング結果をより客観的に表し、各集落を比較できるようにするためです。集落カルテを相互に比較することによって、各集落の差異と共通点を浮き彫りにし、それらの特徴と人口増減を照らし合わせて集落の盛衰の要因を探りました。今後、調査事例を増やすことで各項目の評価規準をより汎用性の高いものにし、今回調査した集落についても事後的評価を行うことによって、評価の正当性を検証していくことが必要と考えます。

2-2 調査対象集落のカルテ

次項からは、調査対象集落の集落カルテを示していきます。集落カルテには先述の9つの評価項目とそれに対する点数、及び評価点が表形式で記されています。また、表の下には各項目の点数をグラフ化し、見た目で集落の評価が分かると共に、後で集落同士を比較する際、比較しやすいように配慮してあります。

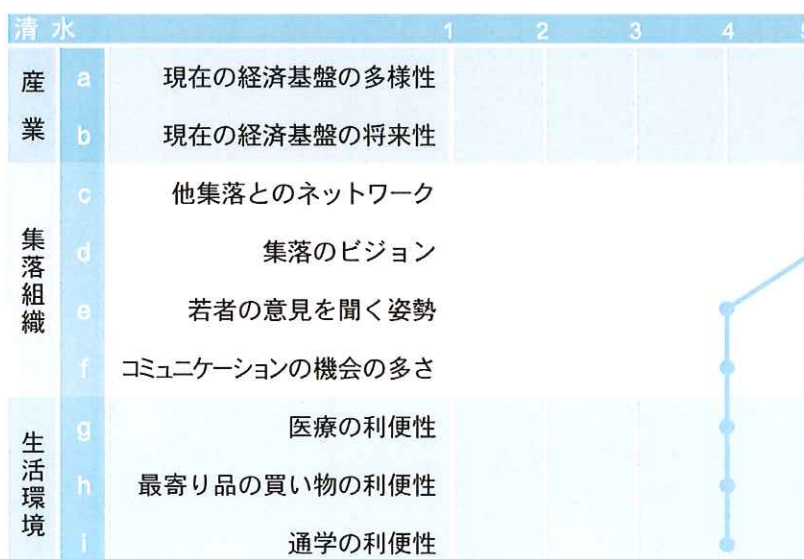
深 瀬 - f u k a s e -

産 業	a	現在の経済基盤の多様性 (5点)	農業は高齢者を中心として、公共土木は比較的若い世代が中心となって就労しており、世代に応じて異なる経済基盤を有しています。農業については、ミシマサイコ、ショウガ、ケール、茶、カブ等の多種目の栽培が行われています。	
	b	現在の経済基盤の将来性 (5点)	農業については、他の集落と比べて耕作面積が大きく、また近隣集落では珍しく40代までの比較的若い世代の後継者がいることから、将来に向けての基盤が整いつつあります。さらに、地元の公共工事については、今後数年間は事業が継続する見通しであり、相対的にみて経済基盤の将来性は高いと考えられます。	
	集 落 組 織	c	他集落とのネットワーク (5点)	道路や農業用水といったインフラ整備のための陳情を行う際に、周辺集落との協力体制を整えています。
		d	集落のビジョン (5点)	農業を軸とした産業育成を意識しています。また、国道へのアクセス道路の改良を見越して、薬草やお茶等を活用したグリーンツーリズムの場として集落を位置づけるビジョンが集落内にあります。
		e	若者の意見を聞く姿勢 (4点)	若い世代は建設業に主に従事していますが、休日は親の農業を手伝っており、農業を通して若者の意見を聞く姿勢もあると思われます。
		f	コミュニケーションの機会の多さ (3点)	農業を通じて世代を越えた一定のコミュニケーションがあると思われます。
生 活 環 境	g	医療の利便性 (2点)	集落内まで患者バスが運行されていないことから、他集落と比べて不便な面があります。	
	h	最寄り品の買い物の利便性 (3点)	移動スーパーが週に4回来ています。	
	i	通学の利便性 (3点)	近隣の集落に小学校が立地しています。しかし、平成14年度からは休校となり越知中心部の学校の校区となって通学距離が延びることとなりますが、現在のところ通学する生徒は集落にいません。	



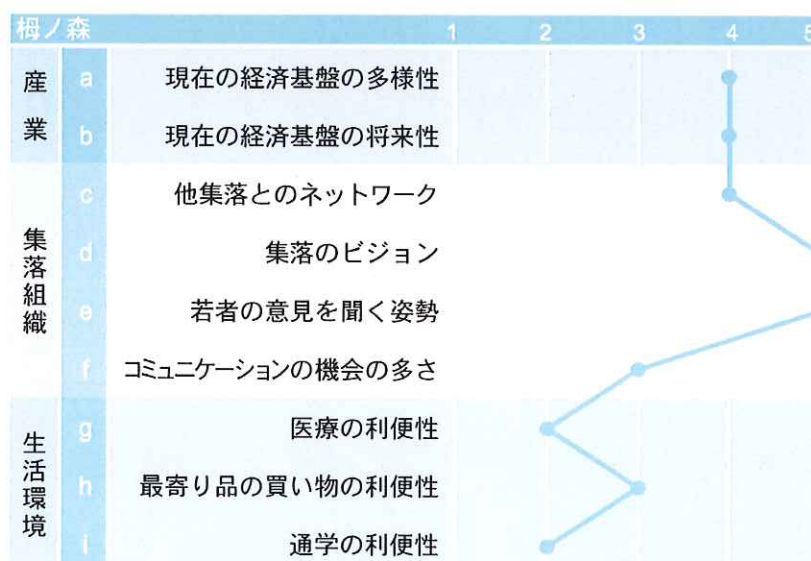
清 水 -shimiz u-

産 業	a	現在の経済基盤の多様性 (5点)
	比較的若い世代は建設業と農業の兼業、高齢者は年金農家が多い状態となっています。農業についてはハウスマトをつくっている独自の生産組合があるほか、ミシマサイコをはじめとする契約栽培にも積極的に、新しいものを取り入れながら農業を行っています。	
集 落 組 織	b	現在の経済基盤の将来性 (5点)
	比較的若い農家がんばっていることや、作目を時代に合わせて変化させてきた農業形態は、今後大きな可能性を生み出すきっかけとなるかも知れません。また、集落全体で農業に取り組む姿勢が伺えることから、農業に特化した産業形態への移行がうまく進めば、将来性は高いと思われます。	
	c	他集落とのネットワーク (5点)
	集落のインフラ整備に関する陳情を周辺集落と合同で行ったり、周辺集落の区長をはじめとするメンバーが集まってコミュニケーションを取るなど、他集落とのネットワークを積極的に進めています。	
	d	集落のビジョン (5点)
	「農業で食べていく」という意志の強い住民が多いことや、I・Uターンにも積極的な姿勢がみられることから、地域活性化に向けたビジョンがある程度できています。	
生 活 環 境	e	若者の意見を聞く姿勢 (4点)
	集落の行事には積極的に若者の参加を促しており、若者の中からリーダーが育つことを望んでいます。	
	f	コミュニケーションの機会の多さ (4点)
	花見や盆踊り、運動会といった行事を地区又は集落単位で行っており、特に若者層の参加を促すことで、世代を越えたコミュニケーションづくりをすすめ、集落全体のまとまりにつなげています。	
	g	医療の利便性 (4点)
町の患者バスが週に2回来ており、他集落(週1回)に比べて利便性はよい。		
生 活 環 境	h	最寄り品の買い物の利便性 (4点)
	週4回、別々の移動スーパーが来ており、最寄り品の買い物には不便していません。	
	i	通学の利便性 (4点)
現在の校区である横島小学校へは徒歩での通学も可能ですが、平成15年4月から休校となることが決まっており、その後は越知小・中学校へスクールバスで通学することとなります。		



柵ノ森 - tsuganomori -

産 業	a	現在の経済基盤の多様性 (4点)	農業を軸とした産業構造がはっきりとした集落であり、その品種はショウガ、ピーマン、ミシマサイコ、ハクサイ、カブ等と多岐に渡っています。また、契約栽培を多品目で積極的に取り入れており、より安定した農業を目指しています。
	b	現在の経済基盤の将来性 (4点)	単一作物だけに特化せず、常に多品種栽培によるリスク配分を行い、積極的に契約栽培を取り入れることで安定した農業を確立していけば、今後もこれまでのノウハウを活かした発展を遂げることができると考えます。
集 落 組 織	c	他集落とのネットワーク (4点)	インフラ整備に関する陳情活動などが盛んでないことから、集落同士の連携は見られませんが、契約栽培や農業の取り組みについて、個人レベルで周辺集落を中心に情報交換が行われています。
	d	集落のビジョン (5点)	昔から農業が盛んな集落で、「農業で食べていく」という意志が強く、今後も農業を中心に雇用や安定収入の場を求めていくというビジョンがはっきりしています。
	e	若者の意見を聞く姿勢 (5点)	集落には区長以外にもリーダー的存在の方(長老)がおり、もめ事を抑えたり、若者の意見を聞いたりしてくれています。
	f	コミュニケーションの機会の多さ (3点)	神祭、花見、道づくりなどの行事には集落のほとんどの人が参加しています。
生 活 環 境	g	医療の利便性 (2点)	週2回、近隣の本村まで町の患者バスが来ているが、本村までは自分で行く必要があり、バスが乗り入れている集落に比べ、不便な状態です。
	h	最寄り品の買い物の利便性 (3点)	週3回、それぞれ別の移動スーパーが来ています。
	i	通学の利便性 (2点)	越知小・中学校へスクールバスが運行されていますが、患者バス同様、運行は本村までとなっており、不便を感じています。



日ノ浦 -hinoura-

産 業	a	現在の経済基盤の多様性 (2点)	2~3人が建設業に従事している他は、ほとんどが農業を行っています。農業については、ミシマサイコ、ショウガ、ワラビ、ネギ、ピーマン等を栽培していますが、規模は小さく、自給目的のものがほとんどです。
	b	現在の経済基盤の将来性 (2点)	以前はショウガの出づくりが盛んな集落でしたが、高齢化に伴い、農業は経済基盤としての役割というよりむしろ高齢者の生きがいや健康づくりの役割を果たしてきています。このため、将来に向けた農業基盤整備は行われていません。
集 落 組 織	c	他集落とのネットワーク (2点)	集落内のまとまりは非常に強いものとなっていますが、他集落との連携はほとんど見られず、集落単独で活動しています。
	d	集落のビジョン (2点)	今住んでいる高齢者の生きがいづくり等を目的とした取り組みは精力的に行っていますが、次世代の将来まで見越したビジョンはあまり持っていません。
	e	若者の意見を聞く姿勢 (3点)	集落内でのコミュニケーションの場が普段から比較的多く、若者の意見を聞く姿勢がある程度あると思われれますが、集落にはほとんど若者が残っていない状態です。
	f	コミュニケーションの機会の多さ (5点)	集落全体で毎年旅行に行くことが恒例となっているほか、神祭や老人会の活動等が熱心に行われており、集落内でのコミュニケーションの機会が多く設けられています。
生 活 環 境	g	医療の利便性 (4点)	町の患者バスが、週に2回きており、他集落(週1回)と比べて利便性は高くなっています。
	h	最寄り品の買い物の利便性 (3点)	移動スーパーが週に3回来ています。
	i	通学の利便性 (3点)	小・中学校が、他の集落と比較すると比較的近い場所にあるため、スクールバスは運行されていません。

